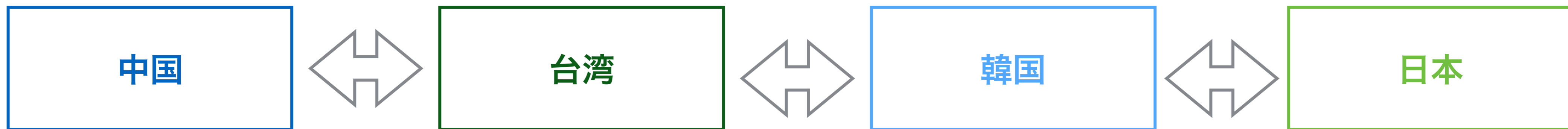


明治大正期における、詩詞を通じた日中韓文人の交流についての総合的研究

Comprehensive Research of Interaction with Other Literary Person in Japan, China, and Korea at Meiji Taisho Era

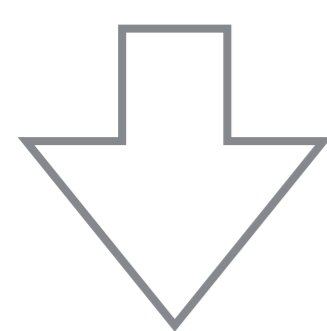
プロジェクトリーダー 萩原正樹（文学部）



各国の研究者の協力を得ながら立命館を拠点として研究を展開

日中韓三カ国において
作品の収集

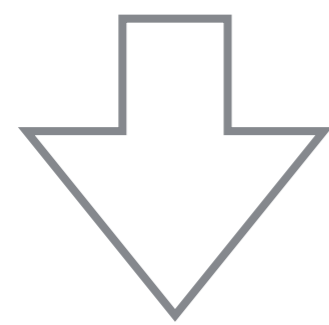
申報、台湾日日新報等の新聞、「随鷗集」等の漢詩文雑誌、
個人詩詞集、などの網羅的な調査



『明治大正期日中韓文人交流詩詞集』（仮題）の出版

作品内容・背景・作者・
唱和者・贈答者等の分析

伝記研究、詩社の様相、支配被支配の関係、和製漢語の
与えた言語的・文化的影響、などの徹底的な分析



『詩詞を通じた日中韓文人交流と相互理解』（仮題）の出版

詩詞を通じた交流の
あり方を明らかにする

目的 Purpose

日中（含台湾）韓三国の文人が、詩詞の唱酬を通じていかに交遊し、いかにその文学や文体、さらには思想を変容させていったかについて具体的な事例を挙げて考察し、文学を通じた国際交流が各国の文化理解にどのような役割を果たすことができるかについて明らかにする。

目標 Goal

- ① 日中韓三国の文人の詩詞を通じた交流の実態を明らかにする。
- ② 「社交詩」の文学としての特徴や言語的特徴を明らかにする。
- ③ いくつかの具体的な事例を取り上げて、詩詞を通じた交流が相互理解にどのような影響を与えたのかを明らかにする。